

道教委 芦別高で1学級増 公立高 岩緑陵高普通科も 配置計画

北海道教育委員会は3日、2025年度から27年度までの公立高等学校配置計画を決定し、公表した。空知管内では24年度の入学者減で学級減を実施した芦別高と深川西高で1学級増とした。また、岩見沢東高と岩見沢西高が統合する新設校は、文理探究科2学級、普通科5学級(うち定時1学級)とし、深川東高は2学級から1学級とする。

空知南学区では、前年度よりも中卒者が58人増えるため、25年度に岩見沢東と岩見沢西を統合した新設校のほかに、岩見沢緑陵普通科を1学級増。28年度から31年度までの見通し

として、欠員が40人以上生じている学校で定員を含む学科構成の在り方の検討などを盛り込んだ。

空知北学区は、25年度の中卒者が前年度より7人減る見通し。深川東高総合ビジネス科を1学級減とし、普通科1学級体制に。中卒者の状況などを勘案し、24年度実績で減らした学級を復活して芦別高普通科を2学級、深川西高普通科も3学級とした。

さらに28年度から31年度までの見通しとして、滝川市内における再編整備を含めた配置検討、第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が難しく、地元進学率が高い高校は地域連携校の位置づけによる存続検討を求めている。

芦別高校1学級増

公立高校
配置計画
道教育委員会が公表

【芦別】道教育委員会は3日、2025年度から27年度の公立高校配置計画を公表した。空知北学区(中・北空知15市町)では25年度、芦別高校が1学級増の2学級になることが盛り込まれた。

対し、荻原貢市長や福島修史教育長、北村真市議会議長が同様の要望を行っていた。

道教育委員会の配置計画の公表を受け、荻原市長は「要望していた芦別高校の普通科2間口が維持されたこと

は、オール芦別で取り組んだ結果が実を結んだものと、大変喜ばしい。今後も生徒から選ばれるよう更なる魅力向上に向け、芦別高校と連携を図り、積極的に取り組んでいきたい」とコメントした。

【沢田忠良】

6月に公表された道教育委員会の計画案で

口」の維持を要望。8月にも道教育委員会に